





JR学研都市線「津田」駅から北東へ歩いて6~7分。周囲を堤に囲まれた地蔵池がある。

「地蔵池オアシス共園」として整備されていて、それを示す案内板も設置された。8月下旬には、入り口にロープが張られていて中へ入ることができなかつた。それでも西側から堤に上がれたので、全体を見渡すことはできた。それはそうと「公園」ではなく「共園」とは、「都市と農業との共生」「自然と人間との共生」「内(ため池)と外(周辺地域)との共生」という意味がある。そう

いふべきは、富田林市に粟ヶ池共園という、農業のほかには、富田林市に粟ヶ池オアシス共園だ。地蔵池オアシス共園の底からたくさんの石が出てきた。それを呼びられるようになつた。そこで池の底からたくさんの石を掘り、堤体を高くする改修が行われた。そのとき、どういうわけか、池の底からたくさんの石が出てきた。それを呼ぶた。祠は道路に面しているので、誰でも見る

ことができる。ほかにも太古の埋木が出土したことから、数万年前は海岸だったことが判明した

たという。

ちなみに池の東側、公園の入り口「念佛橋」の標

石がある。かつて津田村のはずれにあった橋で死者を埋葬地まで送り届けた際に、最終地点にあつた橋だといわれている。

縦幅ほとんどを使って設置されている、巨大な石のオブジェだ。大きくうねった形は、風を表現した造形だとか。一方、少し小高くなつた芝の丘もある。取材に訪れた日は残暑が厳しく汗ただけたが、季節がよければ、公園通り抜ける桜の木もあって、満開になれば、地元の人だけが知る穴場のお花見スポットになるそうだ。風を表現したオブジェが、ちょうどいい感じのベンチになることだろう。

桜の木が心地よいだろうと想像できる。

風が心地よいだろうと想像できる。

風が心地

